

# 平成22年度 第3回仙台市環境審議会 議事録

平成22年12月6日(月)

15:00~17:00

第二委員会室

## I 次第

1. 開会
2. 議事等

- (1) 「杜の都環境プラン(仙台市環境基本計画)」(現行版)の定量目標及び施策に係る平成21年度進捗状況について
- (2) 「杜の都環境プラン(仙台市環境基本計画)」の改定に係る答申案について
- (3) 「新・仙台市地球温暖化対策推進計画」の改定に係る答申案について
- (4) その他

## II 出席委員数

出席 28名

欠席 6名(嶋中貴志委員、金久保佐知子委員、小松州子委員、山本昭委員、奥村 誠臨時委員、両角和夫臨時委員)

## III 議事等

司会(企画調整係長)	それでは、議事等に入る。 これからの議事に関しては、「仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則」第5条第1項に基づきまして、佐藤会長にお願いしたい。
議長(佐藤会長)	議事に入る前に、本日は、臨時委員の峯田喜次郎委員に初めてご出席をいただいているので、一言お言葉をいただきたいと思います。現在、日比谷総合設備株式会社東北支社営業部長をされている峯田委員は、東北福祉大学でのマイクログリッド実証実験など、エネルギー供給事業の実績が豊富でいらっしゃる。それでは、峯田委員お願いします。
峯田委員	峯田と申します。今年6月までNTTファシリティーズにおり、そこでいろいろな環境に関する取組みをさせていただき、その関係で今回お手伝いさせていただくことになった。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
議長(佐藤会長)	ありがとうございました。それでは、議事を進める。 まず、会議の公開および議事録署名について確認させていただく。会議は、今回も個人のプライバシーに関する事等、抵触するようなことはないもので、公開で開催させていただく。議事録署名について、私(会長)のほかに署名いただく委員は、前回は加藤委員にお願いしたので、今回は工藤委員にお願いしたいがいかがか。

工藤委員	「了承」
議長(佐藤会長)	ありがとうございます。 それでは、議事等(1)に入る、事務局より説明いただきたい。
事務局環境企画課長)	(資料1に基づき、議事等(1)「杜の都環境プラン(仙台市環境基本計画)」(現行版)の定量目標及び施策に係る平成21年度進捗状況について説明)
議長(佐藤会長)	ただいまの事務局からの説明について、ご質問やご意見等はあるか。
吉岡委員	印刷ミスなのか分からないが、資料1の2ページの「(1) 定量目標の達成状況」のところで、身近な生き物の認識度について「898%」、とかその上に「488.8%」と記載があるがこれで良いのか。
事務局(環境企画課長)	誤記である。9種の合計で900%である。1種類につき100%で、9種類の調査を行っているので、合計900%中の値の数字になっている。失礼いたしました。
議長(佐藤会長)	認識度というのは、1種の生き物を全員が認識していたら100%ということか。
事務局(環境企画課長)	はい。3ページの6番のレーダーチャートをご覧いただきたい。例えば、ツバメは昭和49年度は「71」と数字があるが、これは「見たことがある」、「分かっている」という認識度が71%、100人いれば71人が知っているという数字である。これら認識度は、9種類加えた場合にどれくらいになるかというものである。
議長(佐藤会長)	分かりました。このレーダーチャートを見ると理解できる。 他にご質問やご意見等なければ、以上で報告を承ったということでよいか。 これは概要版だが本編は作成中で、後で委員の皆様にもご覧いただき、市民の方々にも見ていただくということによろしいか。
委員	「異議なし」
議長(佐藤会長)	それでは、議事等の(2)「『杜の都環境プラン(仙台市環境基本計画)』の改定に係る答申案について」に入る。事務局より説明いただきたい。
事務局(環境企画課長)	(資料2および資料3に基づき、『杜の都環境プラン(仙台市環境基本計画)』の改定に係る答申案について説明)

議長（佐藤会長）	<p>計画案の修正であるが、前回、委員の皆様方からいただいたご意見を反映した形でまとめられている。</p> <p>また、これまでの議論で、答申という中では載せにくいようなこと、あるいは計画案には載せにくいけれども大切なことを附帯意見のような何らかの形で市長に伝える必要があるのではないかとということで、答申案に意見を添付するという形でまとめている。今回、委員の皆様には初めてご覧いただくが、この計画案と意見としてまとめたもの2つについてご意見等を伺いたい。</p> <p>計画案については前回までにだいぶご審議いただいているが、まずこの計画案についてご審議をいただき、その後で、市長への答申の際に添付する意見についてご審議いただきたい。</p> <p>それでは、環境基本計画の答申案について何かご意見や質問等はあるか。</p>
小林委員	<p>この環境基本計画の改定にあたって、仙台市から東北全体に広まるような環境施策を考えていただきたいということを以前にもお願いし、その精神がこの計画案の中に盛り込まれていることは承知した上で申し上げたい。仙台市は東北の中核都市とし東北各地から高速バスや事業用車両が多量に流入することを踏まえ、現在改定中の「仙台市地球温暖化対策推進計画」、本日の資料4だと31ページに、「市外から流入する場合も含め、事業者の、アイドリングストップ等のエコドライブを促進し、次世代自動車等の二酸化炭素排出の少ない車両の導入促進策を検討する」と記述を入れていただいた。したがって、この環境基本計画にも、市外から流入する場合も含め、こういう記述を入れることはできないか。資料3の28ページの2（2）「環境負荷の少ない交通手段の利用を増やす」のところや44ページの第4項1（1）ウの自動車による環境負荷低減対策の推進のところ、燃費性能と排ガス性能の両方について高い基準を求めていくことを書けないか。それから、65ページの第6章第2節第3項の低炭素都市づくり推進のための条例の制定のところ、自動車に高い環境性能を求めることが書ければよいと思う。</p> <p>また、資料3の29ページの3（1）「市民からの出資や寄付による、再生可能エネルギーを利用した発電を促進します」と書かれていることに関連してであるが、この計画案の中においても、交通体系の見直しということで地下鉄の整備について書かれているが、地下鉄自体の付加価値も付けていただきたい。再生可能エネルギーであれば風力か太陽光発電のどちらでも良いと思うが、仙台市の特徴からすれば風況は良くないが、日照時間は長いということがあるのでこれを利用して、例えば、市民出資などにより大規模太陽光発電を設置し、その電力を地下鉄にも利用するような画期的なことはできないか。この計画の中に書ければ一番いいと思うが、そこまで書くのは難しいということであれば、計画策定後の新規事業として検討いただきたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>小林委員から2点のご意見をいただいた。市外から流入する車等の対策を本文に書</p>

事務局（環境企画課長）	<p>けないかということ、再生可能エネルギーを地下鉄の電力に利用するというようなことを書けないかというご意見だがいかがか。</p> <p>市外から流入してくるバスやトラックの車両についての対策についてご指摘いただいたが、44 ページ等で触れることは可能と考える。先日の地球温暖化対策専門部会で同様の意見をいただき、地球温暖化対策推進計画の中で追加し、修正版を本日資料として出させていただいている。</p> <p>それから条例の制定については、今いただいたご意見を踏まえて条例の具体的な内容を今後しっかり検討して参りたい。これは環境基本計画なので、詳細については確かなかなか触れづらいところがあるが、他都市の例では、市や市民、事業者の方々の責務という形で条例の中に書くのは一般的であるが、温暖化対策等については、通勤通学者はもちろん観光客、ビジネス客、ご指摘のあった市外からの車、こういったものに対する対応もあり得ると考えられるので、しっかり受け止めて参りたい。</p> <p>それから、地下鉄東西線ができた際の再生可能エネルギーの活用に関するご意見についてであるが、この計画は基本計画として方向性を示すものなので、具体的な事業の実施等に際してその都度検討していきたい。地球温暖化対策推進計画の中でプロジェクトがいくつかあるが、その中の1つに、地産地消型再生可能エネルギーをまちづくりに生かそうというものがあるので、それらを動かしていく中で参考にさせていただきたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>答申の性格を考えた上でということだと思うが、大事なご指摘ありがとうございます。他にご意見やご質問等はあるか。</p>
田口委員	<p>資料3の28ページから29ページにかけてエネルギー効率の高い交通システムに関して書かれているが、29ページの「エ」のパークアンドライドについて、これは大いにやっていただきたいが、ちょっと気になったのが、72ページの用語説明でパークアンドライドの定義が、「自動車を郊外の鉄道駅に隣接する駐車場に停めて鉄道に乗り換え」、とある。私が認識するところでは、バスで、鉄道はあまり経験がないので、できたらバスも加えていただきたい。鉄道だけを想起させるような書き方だとミスリードされると思う。</p>
議長（佐藤会長）	<p>バスも加えた方よいのではということだが、いかがか。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>いわゆるパークアンドライド、パークアンドバスライドと呼ばれる概念もあるが、確かに重要な内容であるので、本文と用語集合わせて加えたいと考える。</p>
議長（佐藤会長）	<p>他にご意見やご質問等あるか。</p>

工藤委員	<p>仙台市民は 50%の人がマイカーなしでは生活できないことを以前から申し上げて いるが、低炭素社会に向けて、それについてどう対応していくのか。市民が移動する ために発生する CO<sub>2</sub>が結構大きい訳で、もちろんパークアンドライドなども必要だ が、できるだけ公共交通を使いやすいように住宅地などで、例えば「長町くん」のよ うな小さいバスが回り、家の近くから公共交通の停留所や地下鉄駅などにフィーダー 的につないでいくシステムを以前から提案している。そういう目線からの取り上げ と、先ほどお話が出たエネルギーの地産地消について、もう少しここに盛り込まれる と仙台市らしくなり、ひとつの目玉ができるのではないかと。何かもう 1つメリハリの 付いた、低炭素社会に向けての仙台らしいテーマを絞るべきである。市民の 50%以 上の人がマイカーなしでは生活できないこと、また、商業用、業務用の車も非常に流 通していることも含め、そのことによる CO<sub>2</sub>排出の割合が他都市よりも少し大きいと いう課題を解決する方法として盛り込んでいただくとメリハリがつくと思う。</p>
議長（佐藤会長）	<p>仙台の特徴を記述した上での対策ということだが、いかがか。</p>
工藤委員	<p>ネガティブな捉え方ではなく、そのように変えることにより、NPO の活動や先ほ どお話が出た市民の出資、ボランティア活動など、産業興しや地域活性化につながっ ていくのではないかと。この環境と産業経済は表裏一体だが、同じ方向を向いていける ようなアピールなどを工夫していただくと非常に良いかと思う。どうせお金がかかる のなら、低炭素社会に向けた取り組みが再生産のビジネスモデルになるということ を産業界としても考えていくようにしていただけると非常にありがたい。</p>
事務局（環境企 画課長）	<p>資料 3 の 28 ページの「2 エネルギー効率の高い交通システムをつくる」の（1） あたりで、いくつか記述を入れるつもりだが、改めて、ただ今のご意見を踏まえ、例 えば 2 の書き出しの部分の 3 行に、仙台らしさを表現できるように工夫させていただ きたい。産業等に関しては、プランの後ろのほうに出てくる仕組みづくり等の中で、 低炭素だけではなく、全体的に産業振興や地域活性化につながるような形で記述して いる。それから、後ほどご紹介する仙台市地球温暖化対策推進計画の中でも、そのよ うな視点が大事だという考えから、プロジェクトを立案したのでご確認いただきた い。</p>
工藤委員	<p>今のことを 1 個くらい前段で盛り込んでいただくと、夢を入れることができいい のではないかと。</p>
議長（佐藤会長）	<p>他に何かご意見やご質問はあるか。</p>
杉山委員	<p>市民活動の例としてであるが、自宅のマンションでカーシェアリングを始めて半年</p>

	<p>が経ち、とても良い状態で運営できている。どこからも助成がなく、自分達のマンションの中でやっていくので初めは9名だったが、今は13名まで増えて、ご近所の方々からも羨ましいという声をいただいている。仙台は、とても交通網が発達しているので、このような形で街中は車を持たなくても大丈夫な人達が結構多いように感じている。今さらではあるが、市民活動としてとても上手くいっていることをお話したかったのと、県の方でもカーシェアリングの研究や情報収集をされていると聞いたので、プランの中に入れていただけないか。決して採算が合っているわけではないが、自分はこのカーシェアリングをととても楽しく利用している。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>事務局いかがか。先ほどの工藤委員やただ今の杉山委員のお話もかなり具体性を持った内容なので、答申案自身に盛り込むということは少し難しい点もあるかと思うが、例えば、利用価値の高い公共交通中心の交通体系というように28ページには書いてあるが、それだけではなくいろいろな方法もあるということであれば、ここに書けるのではないかと思う。パークアンドライドが郊外に住んでいる人のための形だとすれば、カーシェアリングは都心部に住んでいる人のための形、ということで両方大事だと思うがいかがか。</p>
<p>事務局（環境企画課長）</p>	<p>カーシェアリングを仮に盛り込むとすると、28ページの2（2）「環境負荷の少ない交通手段の利用を増やす」の中に、1つキーワード的に入れるということが考えられる。カーシェアリングについては全国でいろいろな動きがあり、仙台市でもマンションなどで行われている。検討させていただきたいと思うが、カーシェアリングで車の数は減るが、たくさん利用したのではトータルでの車の利用数は変わらないとも言われている。ただ、様々なアンケート結果によるとカーシェアで意識が変わり、車を使わない方向に動いていくというデータもあるようなので、あまり詳細は書き込めないかもしれないが表現等を検討したい。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>他に何かあるか。 なければ、次に答申書に添付する、審議会の意見としてまとめた別紙について見ていきたい。内容としては、委員の皆様これまでご議論いただいたことを事務局でまとめたものになっているが、表現の仕方についてなどご意見等はあるか。</p>
<p>花輪委員</p>	<p>「記」以下に4つ項目があるが、1番目は市政全体として市長にはリーダーシップを発揮して下さい、2番目は仙台らしい施策を目指して下さい、3番目は、お金が必要なので環境への投資をして下さい、そして特に4番目は、引き続き、市民との協働の下にプランを推進して下さいと書かれているが、私は4番目の項目が一番重要だと思う。10年間の計画なので、どんどん技術革新が行われていく間に、現在思ってもみなかったような施策が有効ということもあり得ると思う。そういう意味で4番目の</p>

	<p>項目をしっかりとっていただきたい。</p> <p>それから、1番目の項目の「行政組織の縦割りを超える政策意思とリーダーシップを発揮頂き、取り組むことを求めます。」とあるが、違和感がある。「リーダーシップを発揮して頂き」というのは2行目の最初の読点の後ろにおき、「リーダーシップを発揮して頂き、環境部門にとどまらず市政全体で取り組むこと」とすれば、「行政組織の縦割りを超える政策意思」という部分はいらなと思う。「総合計画はじめ関連諸計画や基本計画の政策理念や施策に、環境の保全と創造の視点を明確に位置づけて取り組むことを求めます」ということで十分ではないかと思う。</p>
議長(佐藤会長)	<p>これまでの議論で、やはり、「縦割り」ということについて問題になったことを受けて、この「縦割り」という表現が事務局案に書き込まれたのだと思うが、花輪委員がおっしゃるように、文章にしてみると何かあまり綺麗ではないという感じがする。市長のリーダーシップというのは縦割りを超える、という意味だとは思っているのだが、この点についてご意見はあるか。</p>
工藤委員	<p>確かに「行政の縦割りを超える政策意思」という表現については、やはり、花輪委員がおっしゃるようにもう少し表現を工夫しつつ、かつ市長にリーダーシップを取っていただけるような文章になると良いと思う。</p>
議長(佐藤会長)	<p>では、この部分は少し表現を変えさせていただきたい。</p> <p>その他の点についてはいかがか。</p>
中屋委員	<p>今の件に関して、確かに表現上の問題はあるかも知れないが、こと環境については総合的な点から物事を考えなければならない。環境政策も同じだと思う。「環境」の視点からもう一度行政全体のところを見直して、「仙台市の市政を司る大事な視点だ」というところにポイントをあてて、部署を超えて考えていくことが必要である、ということが上手く表現できるといいと思う。</p>
議長(佐藤会長)	<p>1番目の項目に「環境施策は杜の都仙台のアイデンティティの根幹にも関わる」という表現はあるが、もう少し踏み込んで、環境の問題は総合的な問題であるので、経済などについても考えていく必要があるということが分かるような文章にしたほうがよいということだと思う。事務局で少し工夫をしていただきたい。</p> <p>それから、私から申し上げたいのが、前文の最後に「意見します」とあるが、「具申します」となどの表現にしたほうがよいのではないかと思う。</p> <p>他にご意見等あるか。</p> <p>では、環境基本計画案については若干修正を加え、答申に添付する別紙については、1番目の項目の表現を少し工夫するというので、事務局と私のほうで調整させ</p>

	ていただきたいと思うがよろしいか。
委員	「了承」
議長（佐藤会長）	それでは答申に向け、最終的な調整をさせていただきたい。
工藤委員	この答申に添付する別紙の3番目の項目、「いわゆる低炭素都市づくりの基礎的なインフラとも言える社会、経済の制度づくりや省エネ機器、設備等の積極的な導入を進めるため、国、県等の外部資源も積極的かつ効果的に活用し、ハードソフトの両面から将来を見通した施策の展開を求める」ということについてだが、一般市民や産業界から見ると、省エネ機器等を導入すると助成金や補助金をもっと積極的に出してもらえると期待感を持たれてしまうのではないか。あるいは、それを覚悟でこのように記載しているのか。いわゆる産業界自らの低炭素社会へ向けた投資についても、市民も含めて、もう少し上手く表現したほうがよいのではと思う。というのは、今まで全部、環境という言葉を聞くと、経済産業界は先にお金がかかる、国がお金を出してくれてそれを利用するんだ、と考えてしまう。例えば、エコポイントは一過性に終わってしまうものではないか。そのあたりを行政と市民、産業界も一緒になって生み出していくという表現があると仙台市の目玉になるかと思う。
議長（佐藤会長）	今の工藤委員のご意見はごもっともだと思うが、この文章の内容は市長に申し上げることなので、ちょっとそぐわないのではないかと考える。
工藤委員	「了解」
議長（佐藤会長）	それでは、次の議事に入る。議事の（3）の「新・仙台市地球温暖化対策推進計画」の改定に係る答申案についてであるが、前回の審議会では地球温暖化対策推進計画の改定について進捗状況を事務局より報告いただいた。その後、専門部会を開催していただき、本日の審議会で答申案を取りまとめることになっていた。本日はまず、地球温暖化対策専門部会の部会長をお務めいただいている鈴木陽一副会長よりご報告をいただきたい。
鈴木副会長	【説明用資料「仙台市地球温暖化対策推進計画のあり方」に基づき説明】
議長（佐藤会長）	どうもありがとうございました。それから、地球温暖化対策専門部会の委員の皆様と臨時委員の皆様方の熱心なご議論に感謝申し上げたい。 それでは、ただいまご説明いただいた内容についてご質問・ご意見等はあるか。 その後で答申に添付する附帯意見についてご意見を頂戴したい。



<p>工藤委員</p>	<p>大変素晴らしいまとめをされており、感銘を受けている。中でも、低炭素社会に向けて、逆に現状の原因を考えると、化石資源を大量消費する今の機械文明が挙げられる。人が移動する方法として、化石エネルギーに頼らない移動体や、1人で移動するのではなく複数で移動したほうが効率が良いが、それがなかなか実現できない。私も以前から申し上げているように、仙台市民の半分の人はマイカーがないと生活できないので、やはりこういうビジョンを立てていただき、仙台市が公共交通をもっと使いやすくすることが必要である。</p> <p>例えば、住宅地と公共交通機関を結ぶマイクロ電気バスなどの開発など、新車から作るのではなく今出来ることから始めるべきであり、地元産業界で研究を進めている。東北大学工学部でも次世代移動体システム研究部会がスタートし、学長の重点施策として採択された。ここでは、電気自動車を前提とし、今の車のエネルギー効率を1/3から1/5以下にし、さらに1/10以下のエネルギーで同じ人物が移動出来るところまで目指している。仙台には、東北大学もあり地元の製造業もあるわけで、県民、市民を含め、産学官の連携をする仕組みは大きな目玉になると考える。</p> <p>また資料にLRTの写真が出ているが、これについても、いろいろ技術勉強会を進めているグループがあり、そのあたりも目玉に出来れば、仙台の独自性につながっていくと考える。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいま、工藤委員がおっしゃった視点は部会で話題にはなったが、そこまで具体的な内容にはならなかった。部会では交通政策の方が話題になり、例えばLRTでも地下鉄でもバスでも、泉中央から仙台駅に行くのと、鶴ヶ谷団地から仙台駅に行くのでは、距離はほぼ同じなのに鶴ヶ谷の方が合計として高い運賃を払わなくてははいけない。欧米では、A点からB地点まで移動するのに、後戻りするなど不合理なルートでない限り、例えば1時間なり2時間なりの決まった時間内であれば、複数の種類の交通機関を組み合わせて、ほぼ同じ距離なら、ほぼ同じ料金ということが実現できているが、なぜ日本は出来ないのか。ICカードにするとますます運賃を払う痛みが分かりにくくなり、世界的に見ると非常に不合理なシステムである。最も、これは企業の経済行動としては、低炭素化社会ということを考えなければむしろ合理的な制度になっている。そういったことが話題として多く出された。なので、新しい技術を使いながら少しでも環境負荷の小さな交通機関にシフトしてゆくことを技術と政策の両面が満足する形で進めることは大変であると改めて感じた。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>ありがとうございました。他にご意見やご質問はあるか。</p> <p>私から伺いたいのが、森林の再生や維持は非常に重要なことだと思うし、昨今の里山問題も含まれるのだと思うが、この取り組みの主体となるのは誰なのか。今、林業労働者が実は一番高齢化しており、厳しい産業のようであるが、誰がどのようにやっていくのか。技術も必要であるからボランティアも難しいだろう。このあたりについて</p>

鈴木副会長	<p>どんな議論があったのか教えていただければ。</p> <p>仙台市は地方都市ではあるが、100万人もの人口がいる大都市である。その中で、杜の恵み循環プロジェクトがあり、例えば仙南の方で薪ストーブを使うために、都市住民と地域の方が連携してリサイクル体制を作っている例があるが、仙台でそのような山村モデルが適用できるかというところが非常に難しいところがある。なので、まずは意識の高い人達、実際に実践を始めている人達の活動を支援しながらコミュニティを広げていく。コミュニティをつくり広げる。最初は本当にささやかな社会実験の集まりかもしれないが、それを少しずつやっていくことが重要ではないかという議論があった。この点は事務局いかがか。補足願いたい。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>緑については、副会長からお話があったとおり、林業が盛んなところでは、かなりいろいろな取り組みが進められている。仙台においては、森林資源がかなり豊富であるが、必ずしもそちらが優先的に行われている訳ではない。そもそも林業が経済的に成り立たないということもあり、森林の更新が滞っているというのが実態である。専門部会で、仙台市にとって森林は大事な資源であるので、低炭素の視点で何が可能かという議論があった。ご質問の「誰が担うのか」については、確かに現在、農業と似ていて、林業に従事する方の高齢化も進んでおり、なり手もないなど問題を抱えている。</p> <p>実は最近、農政サイドで市民が楽しみながら参加出来る里山の草刈りやイベントが行われており、参加人数も多い。一昨年あたりから、いわゆる森林ボランティア育成ということで、チェーンソーの使い方など含め、そういった事業を市民の方々に募集したところ、抽選になるような倍率になるなど、市民の関心は必ずしも低くはない。これまで林業施策というと、いわゆる供給サイド、山側からの施策ばかりだったが、使う側もどのように工夫するか、という需要と供給が上手く回るような方策を仙台市全体として動かしていかなければならない。</p> <p>したがって、都市住民や企業がどのように関わっていくかという視点で今回プロジェクトを提案させていただいている。その中で、例えば参加した人が得をする、ということも含めた新しい仕組みなども考えている。難しい問題だと認識はしているが、困難であるがやってみる価値がある、そういうテーマの1つだと思っており、しっかりトライしていきたいと思っている。</p>
議長（佐藤会長）	<p>担い手はいるのかという質問だったが、むしろ、担い手がいないところで、チャレンジな課題だがやらなければいけない、ということだった。</p>
工藤委員	<p>国が現在一生懸命やっている農商工連携とか、今の新卒者の就職難などを見ながら、森林の担い手は誰なのか考えると、土木建築業の中で公共事業が減ったために、</p>

	<p>農業や山林などに参入したいと考えている企業などはよく我々の間で話題になる。しかし、農地法や山林の管理責任の問題など、法的な規制のため縛られ、それを越えてまで参入しようとするリスクが伴う。また、専業農家ではなく、農地は持っているが片手間にやっている農家の人達が、外から新しい産業が入ってくることにに対する抵抗勢力になっている面もある。そこのところのミスマッチを国などが緩和することで、参入しやすい環境を法的に整備することが必要であり、仙台市も主張していくべきである。</p> <p>仙台の山村から都会に出ていった人たちが実は戻ってきたがっているということも耳にする。都会から山村に戻れるような枠組みと、山村で成り立つようなモデルというのはいくらでも考えられるのではないか。</p>
議長（佐藤会長）	<p>ありがとうございます。大事なことだと思う。</p>
吉岡委員	<p>先ほどの質問に少し補足的に答えさせていただきたいが、工藤委員がおっしゃったように、担い手はどこかにいるのだろうが開拓しなくてはいけない。そして、それを使ってくれるマーケットがないと人が寄ってこない。担い手がゼロになる前に、仙台市のバイオマス資源を積極的に使っていくために、まずマーケットをきちんと確保し、担い手が自然に集まってくるようなことをこの計画の中に盛り込みたいということで、杜の恵みの循環プロジェクトが位置づけられると思う。このようにご理解いただければと思う。</p>
議長（佐藤会長）	<p>潜在的な担い手がいるということや、担い手を呼び込むようなプロジェクトや施策が必要であるということがわかった。</p> <p>他にご意見・ご質問等あるか。</p>
山本玲子委員	<p>1つ伺いたいのだが、なぜ仙台市民の50%の人が車なしでは生活できないような地域であるのかというところが、まったく触れられていないのが残念である。難しいことを申し上げてしまうが、できれば盛り込んでいただきたい。仙台市でも、市街化調整区域をむやみに市街化区域にしない、とか、市街化区域になっているところを元に戻すという方針が出されつつあるが、結局は街の中で空洞化が起きている。身の回りで生活出来るような環境があれば、そんなに車は使わない。たまに外出するくらいなら、タクシーや公共交通機関を使えば移動出来る。ところが、日常生活の中で移動手段が適切に配置されていないことや適切な料金でないことが、公共交通機関を利用してくれないことにもつながるため、まちづくりや環境ということを考える時に、視点として積極的に入れていただきたい。</p>
鈴木副会長	<p>まちづくりも重要だということは、資料4の第4章の冒頭に記している。27ペー</p>

事務局（環境企画課長）	<p>ジの施策の体系の項目に、一般論としてであるが、「温室効果ガスを 25%削減するためには、まちづくりから…」ということで、単に暮らしの行動様式だけではなく、まちをつくることから重要であると記している。具体的に、この交通体系について、ただ今の山本委員からのご意見についてまちづくりというキーワードに即して盛り込むことができるかどうか精査し、事務局と相談したい。</p> <p>この計画として踏み込めなかったものの1つとして、11月に策定された仙台都市交通プランへの評価がある。このプランを着実に実行することが行政的には合理的であるのだろうが、中期的なところまで視点を広げると、少なくともこの都市交通プランだけでは温暖化対策という意味では不十分だということを随所ににじませ、答申への附帯意見の中で市長に明確に申し上げるようにしたつもりである。</p> <p>まちづくりについて事務局より補足をお願いしたい。</p> <p>具体的には 28 ページの冒頭の都市構造と低炭素の関わりという中で、最初に機能配置の話を書いているが、おっしゃるとおり、低炭素型の都市づくりとコンパクトシティは方向性が一致していると理解している。さらに、公共交通は東西線が出来れば、軸が十字の形となるので、それを機軸としたまちづくり、都市の求心力や市街地の活性化が極めて重要だと考えている。また、泉や長町など地域の拠点となる部分の機能も重要である。温暖化計画ではあるが、まちづくり全体として、低炭素に向け、総合的に取り組まなければならない。</p> <p>環境プランもこの温暖化計画も、先ほどから工藤委員がおっしゃっている産業振興や地域経済の活性化などにつながるよう意識した形になっていると思う。これらと一緒に、仙台市のまちづくり、都市構造、拠点のあり方なども低炭素という視点で捉え、この温暖化計画に盛り込んでいるところである。</p>
花島委員	<p>資料 4 の 44～45 ページに仙台都市交通プランとの関わりが触れられているが、仙台都市交通プランも公共交通は環境に優しいということに触れている。44 ページの「背景・狙い」の中に、仙台都市交通プランが策定されたと紹介があるが、そのプランの紹介に、単に公共交通を中心とした交通体系づくりのためということだけでなく、公共交通が環境にも優しいという面から、公共交通に誘導していくというプランになっているということを加えると、都市交通プランとこの温暖化対策推進計画の連携の関連付けがより明確になって、両輪でやっていかないといけないということがはっきり示される形になるのではないかと思う。</p>
議長（佐藤会長）	<p>44 ページの「背景・狙い」の 3 番目の項目に、融合・連動させると書いてあるが、もう少し交通プランの中身にも触れた方がよいのでは、ということか。</p>
花島委員	<p>交通プラン自体も環境に優しいという面を一応着目はしている。当然、公共交通プ</p>

	<p>ロパーの問題を前面に出しているプランではあるのだろうが、環境審議会の立場から見てもオーバーラップする部分を元々含んでいるので、それを施策として後押しするのがこの温暖化対策推進計画であるということを明確に出すべきである。</p>
鈴木副会長	<p>確かに今言われたとおりの部分はあるが、実は、部会としては、都市交通プランについて評価する意見はなかった。</p>
花島委員	<p>都市交通プランとの連携については、部会での議論からなかなか難しいということは理解した。</p>
中屋委員	<p>「見える化」という言葉を使って可視化することは非常に良いと思う。さらにもう一步踏み込んで、どういことをすれば低炭素化社会に貢献できるのか、どうい生活スタイルを取れば、どれだけ節約できるかシミュレーションできるよう可視化しないと、市民1人1人に受け止められないのではないか。今後はどういことを市民がやればいいのかということが分かるようなシミュレーションが必要である。</p>
鈴木副会長	<p>確かに、「見える化」言う以上は、市民1人1人にとってどうい行動を取ればいいのかを示すシミュレーションは必要である。5つのプロジェクトの内の市民協働の項目の中に、そのようなシステムを作っていきたい。</p>
議長(佐藤会長)	<p>52ページにウェブ上やパンフレット等で自らの二酸化炭素輩出量の単位計算などができるように、と書いてあるが、これをもっと積極的にというご意見かと思う。</p>
柳沼委員	<p>私は市街化調整区域に住んでいて、家では薪ストーブを使っている。自分は生まれも育ちも東京だが、このような暮らしができる場所として仙台を選んだ。なので、このような計画案がつけられることは、仙台がこのよう暮らしを選ばせていただける優しいまちだということや、薪ストーブの薪がどこから調達されるのか情報交換のネットワークについても触れられていることなども感じられ、大変いいなと思っている。</p>
議長(佐藤会長)	<p>ありがとうございます。  それでは、次に、この地球温暖化対策推進計画の答申に添付する別紙についてご検討いただきたい。内容については、鈴木副会長より先ほどご紹介があったが、文章についてはいかがか。</p>
花輪委員	<p>この文書は市長が全て読む文章かと思う。そういう意味で私は、審議会のメッセージを伝える大事な文書だと考える。先ほどの環境プランの場合と比べ、次の点を少し</p>

	<p>練られたらどうか。</p> <p>1点目は、同じ審議会の会長名で出されるこの添付文書は長いので、だいぶ縮めた方がよいのではないか。特に冒頭の文章と「記」以下の○印のついていない文章は多少重複している箇所があるように思える。</p> <p>2点目は、先ほど環境プランの場合は、ですます体だが、こちらの○印のついた文章より下の文章では、である体が変わっている。環境プランの場合のように、「私たちはこう考えます」、「こうして下さい」とお願いするような文章の方が良いと思う。</p> <p>3点目は、5つの丸のついた文章について、大胆にやっていただきたい、特に交通施策が重要である、試行錯誤をしていただきたい、PDCA サイクルも評価が重要である、これまでと同様に協働していただきたい、と記載されているが、3番目と4番目の項目をまとめられたらいかがか。</p>
議長(佐藤会長)	<p>私もこの文章は少し長いと思う。</p> <p>他にいかがか。</p>
西村委員	<p>全体としてこのような形でよいと思うが、最初の丸の3行目の「この先10年の政策・施策も大事だが」ということについて、杜の都環境プランに2020年で25%削減すると目標を掲げたので、答申するという意味合いではこの高い目標を掲げたことについても触れていただきたい。もちろん温暖化対策であるから、50年100年を見据えることも大切なことだとは思う。</p>
議長(佐藤会長)	<p>なかなかそのスパンの問題も難しいが。</p> <p>他にいかがか。</p>
山本玲子委員	<p>誤植ではないかと思う箇所があり、確認させていただきたい。杜の都環境プラン資料2の4ページについて、25ページの「温室効果ガス排出量の推定方法の変更について」のところで「従来との比較の考慮し」と書いてあるが、間違いではないか。</p>
議長(佐藤会長)	<p>正しくは「従来と比較を考慮し」である。</p> <p>他に添付文書について何か意見はあるか。</p> <p>この添付文書を直すことはなかなか難しく、計画のあり方についても、いくつかご意見をいただき、新たに盛り込むべきというものもあった。答申の添付文書についても確かに長く感じられ、ですます調とである調の書き方や、「意見します」となっているあたりは直したいと思う。この修正に関し、会長、鈴木部会長、事務局に一任いただいてもよろしいか。</p>
委員	<p>「異議なし」</p>


議長（佐藤会長）	<p>では、そのように修正のうえ、答申させていただきたい。</p> <p>次に議事等（４）「その他」に入る。工藤委員よりご発言がある。ご紹介いただきたい。</p>
工藤委員	<p>資料が２枚あるが、１つは太白少年少女発明クラブという活動があり、小学生、中学生がLEDでイルミネーションを自分達でデザインして作り、ハンダ付けし電線につなげ、風力発電やソーラー発電などによる自然エネルギーをバッテリーに溜め、イルミネーションを点灯する。その点灯式が今月の１８日に太白小学校で行われる。実は太白小学校も、かつては１３００人生徒がいたが、今は３００人を切っている。いわゆる高齢化団地で、夜は暗いので、太白小学校だけでも皆で明るくしようとしている。２６日まで開催しているので、お子さんやお孫さんにPRしていただき、来ていただきたい。</p> <p>もう１つは新聞記事だが、東北大学工学部の先生方が連携し、将来の電気自動車を開発する。青葉山にテストコースも作っている。それを私ども工業会や地元産業界が、将来の理想の自動車はこういうものと夢見ながら皆でやっているが、いずれ目に見える形で結果が出てくると思う。５年かかるか１０年かかるか分からないが、気が付いてみたら、CO<sub>2</sub>を出さないでバスも移動できる、ということを見て先生方と一緒に取り組んでいるので見守っていただきたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>ありがとうございました。イルミネーションのお話は環境教育の意味合いもあるのかと思う。</p> <p>事務局より議事等（４）について何かあるか。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>主に日程関係だが、ご案内させていただく。本日、ご審議いただいた２つのプランの改定についての市長への答申であるが、１２月２０日（月）１１時半より、この審議会を代表して佐藤会長と環境プラン起草委員会を取りまとめたいただいた西村副会長、専門部会の部会長を務めていただいた鈴木部会長のお三方と市長室にて行わせていただく。</p> <p>その後のスケジュールであるが、環境プランは、改定案を２月の市議会に上程して審議いただき、順調に行けば３月の半ばには議決ということになるかと思う。温暖化対策推進計画については、仙台市の方で答申を踏まえ、パブリックコメントを実施させていただき、最終的には年度内の計画決定を予定している。本年度の環境審議会だが、現在のところ、本日の開催を持ちまして最後になると考えている。</p> <p>これまで委員の皆様方にはご多忙のところプランの改定にあたりご意見をお寄せいただき、また審議会にご出席を賜るなど多大なご協力をいただいた。どうもありがとうございました。</p>

議長（佐藤会長）	<p>今後の予定は12月20日に答申し、その後の審議会については、今年度はこれで終了ということである。</p> <p>環境局長よりご挨拶があるようである。</p>
環境局長	<p>環境局長の萱場です。私は4月から赴任させていただいたが、皆様方には大変な時期の審議会をお引き受けいただき、また熱心なご議論をいただいた。これを受け、私どもも意欲的な環境政策を実行していきたい。先ほど、答申に添付する別紙の表現についてご意見をいただいたが、ここに書かれた表現はまさに私達が一生懸命やっている時に必要な応援のメッセージだと思っている。委員の皆様のお熱心なお気持ちに背くことなく頑張って参りたい。本当に長い間大変な作業をしていただいた。これからも何卒よろしくご指導賜りたい。どうもありがとうございました。</p>
議長（佐藤会長）	<p>これで第3回仙台市環境審議会を終了させていただきたい。私の方からも皆様方の熱心なご議論に感謝申し上げるとともに、皆様からの全部の意見を汲み上げてプランに盛り込むことができなかったところについては、力不足を感じており、お詫び申し上げたい。今年度の環境審議会はこれでいったん終了とある。大抵は年に2回ぐらいだったが、今年度は3回開催し、部会や起草委員会など、本当に委員の皆様方には一生懸命やっていただき感謝申し上げたい。</p> <p>これをもって本日の会議を終了する。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>

この議事録について、会議の内容と相違がないことを認める。

平成23年 6月 14日

仙台市環境審議会署名委員

会長 佐藤 洋 

委員 工藤 治夫 